

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	全国史跡整備市町村協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	全国史跡整備市町村協議会参画事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	唐沢山城跡保存整備係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2030201	名称	文化財保護法	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	平成31年度	実施方法
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	直営
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承					参画事業
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	全国史跡整備市町村協議会（以下、全史協）及び全史協関東地区協議会に参画することで、国指定史跡を有し文化財を活かしたまちづくりを推進する全国の市町村（R6現在630団体）と情報交換や連携を図るとともに、文化庁からの指導等を得やすくなることで、本市内唯一の国指定史跡唐沢山城跡の望ましい整備の推進を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	協議会に参画することで全国の加盟市町村との情報交換を図り、史跡整備に関する最新の情報を共有し、唐沢山城跡の保存や活用に係る整備に結びつける。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		協議会加盟店市町との情報交換件数	件	5	6	7	8	9
		唐沢山城跡内の保存整備件数	件	1	1	1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・全史協の負担金（40,000円）支出 令和6年度大会（宮城県多賀城市）欠席 ・全史協関東地区協議会の負担金（10,000円）支出 令和6年度総会及び研修会（栃木県宇都宮市）欠席 ・全史協に加盟する栃木県史跡整備市町村協議会 令和6年度大会（栃木県下野市）出席 担当者研修会（栃木県栃木市）出席	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		大会・研修会等参加	回	0	2	2	
		機関誌収集	部	1	1	1	
		事業費計	千円	40	50	50	
		一般財源	千円	40	50	50	
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	全史協大会及び全史協関東地区協議会総会等を欠席したことから、県内及び近県の加盟自治体との情報交換しかできなかつたため目標値を下回った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		協議会加盟店市町との情報交換件数	件	2	4	4	値が大きいほど良い効果は変わらない
		唐沢山城跡内の保存整備件数	件	1	1	1	値が大きいほど良い効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	2指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない				
			費用は下がった	費用は変わらない	費用が増加した	
			費用の増減無し	○		
			費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

全史協及び全史協関東地区協議会の各事業に参加することができなかつたことから、全国の加盟自治体との情報交換を行うことができなかつた。目標を達成するためには栃史協を含め各団体の事業に積極的に参加する必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明		
全史協及び全史協関東地区協議会、栃史協の各団体の事業予定を事前に把握し、可能な限り大会等へ参加して情報交換の機会を設けられるようする。また、各団体の事業以外においても、各加盟自治体へ積極的に問い合わせを行うなど、唐沢山城跡の保存や活用に係る整備に活かせるように取り組む。		

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	佐野市遺跡地図作成事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当あり

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度	
	課	文化財課	佐野市遺跡地図作成事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	文化財保護係			項	4	市単独or国県補助	国県補助事業	
政策体系	体系コード	2321	名称		目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	R4	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	R7	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					計画策定・管理事業	
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市域内の埋蔵文化財包蔵地の範囲について、現地調査・確認を行い市域全体をカバーする遺跡地図を作成する。令和4から6年度で現地踏査を実施し、その整理・編集を行い令和7年度に『佐野市遺跡地図』を刊行し、埋蔵文化財保護行政の基本ツールとして頒布・活用する。刊本と併せて電子データの作成も行いデジタル化への対応も行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	遺跡地図が作成されることにより、市民・事業者に包蔵地の範囲を明確に示し、適切な対応・指導をすることにより、埋蔵文化財の保護に努めることができる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		地図に反映された埋蔵文化財包蔵地	箇所		403	403	403	602

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	R5年度に着手しなかった旧葛生町域の一部において現地踏査を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		現地調査済面積	k m ²	118	237	356		
		佐野市遺跡地図作成済面積	k m ²	84	84	84		
		事業費計	千円	4,944	4,749	4,719		
		一般財源	千円	813	3,684	3,686		
		特定財源（国・県・他）	千円	4,131	1,065	1,033		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	令和4から6年度は、遺跡地図作成のための現地踏査の実施であるため、効果指標には反映されず、令和7年度の遺跡地図刊行時に、効果が現れる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		地図に反映された埋蔵文化財包蔵地	箇所	403	403	403	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		地図に反映された埋蔵文化財包蔵地	箇所	403	403	403	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	効果は変わらない	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった	
		効果は変わらない指標数	1指標				効果は変わらない	
		効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった	
		指標全体	効果は変わらない				費用の増減無し	○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

当初の計画どおり、事業は進捗している。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	唐沢山城跡保存整備事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑤	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度	
	課	文化財課	唐沢山城跡保存整備事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	唐沢山城跡保存整備係			項	4	市単独or国県補助	国県補助事業	
政策体系	体系コード	2030201	名称	文化財保護法	目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	平成26年度	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	令和11年度	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承					その他市民に対する事業	
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	本市を代表する歴史・文化遺産である唐沢山城跡はその貴重性を認められ、平成26年3月に国指定史跡となった。指定後は史跡を良好な状態で未来に伝えるため、長期的な保存管理と活用・整備が求められるが、東日本では希少な本城跡を象徴する石垣ですら崩落等が発生するなど危機的な状況にある。この市内唯一の国指定史跡を適切に保存管理しながら、歴史・文化を活かしたまちづくりへ活用していくためにも当事業の推進を図る。なお、緊急性の高い城跡中心部の石垣保存整備を優先的に行うとともに、史跡の調査を進めながらガイダンスの在り方について検討する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	唐沢山城跡を適切に保存・継承し、多様な活用を図るために整備を行う。唐沢山城跡について情報を発信し、史跡の重要性や当事業の必要性についての理解向上を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		各種整備の実施	件	1	1	1	1	1
		講演会・講座等の参加者	人	270	270	270	270	270

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・唐沢山城跡保存整備調査指導委員会の開催（7,12,3月）	活動指標	単位	R4	R5	R6		
	・同委員会委員個別指導の実施（4,12,1月）	保存整備調査指導委員会	回	3	2	3		
	・石垣の清掃・点検の実施（通年）	各種設計・整備	件	1	1	1		
	・史跡内の山麓主要箇所の除草業務委託を実施（6～7月）	講演会・講座等	件	1	2	2		
	・保存整備に伴う調査業務委託を実施（5～3月）	事業費計	千円	21,381	10,924	16,820		
	・本丸等の石垣カルテ作成業務委託を実施（9～3月）	一般財源	千円	18,201	7,388	10,626		
	・南城の樹木伐採業務委託を実施（2～3月）	特定財源（国・県・他）	千円	3,180	3,536	6,194		
	・国指定史跡化10周年記念の郷土博物館での企画展と講演会の開催及び根木小屋敷跡の特別公開を実施（10～12月）	(うち受益者負担)	千円	0	0	0		
	・ボランティア団体「史跡唐沢山城跡保存会」活動支援（通年）							
	・本丸石垣上面（復元盛土）のトレンチ調査（3月）							

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	史跡内の各種整備については石垣の保存整備のほか、視点場（南城）からの眺望の確保を目的とする樹木伐採等による植生整備を進めた。また、講演会・講座等の参加者は、国指定史跡化10周年記念事業の講演会や史跡（非公開区域）の特別公開等の実施により参加者数は大幅に増えた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	↓選択して下さい
		各種整備の実施	件	1	1	1	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		講演会・講座等の参加者	人	3	255	400	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標			効果が上がった
	効果は変わらない指標数	1指標			効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標			効果が下がった
	指標全体	効果が上がった			
			費用は下がった		
			費用の増減無し		
			費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

これまでには史跡の保存を最優先に整備に取り組んできたが、今年度より史跡の活用につながる視点場（南城）の南方から西方にかけての眺望を確保する植生整備に着手した。これに対して唐沢山城跡保存整備調査指導委員会より、南城から東方への眺望についてももっと意識するべきとの指導があった。このため、視点場からの眺望の確保という目的を達成し、史跡の魅力をさらに向上させるため、様々な意見を踏まえて植生整備の計画を検討する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
事業スケジュール全体の中で、史跡の保存整備を最優先としつつ、活用のための整備についても比重を高めていくように取り組んでいく。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	天明鋳物生産用具保存継承事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑤	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	天明鋳物生産用具保存継承事業		10	新規or継続	新規事業	
	係	文化財保護係			4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2321	名称	根拠法令、条例等 文化財保護法	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		R6	実施方法	一部委託	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	事業分類	その他内部事務事業	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	天明鋳物生産用具の国指定重要有形民俗文化財への指定に向けた資料を文化庁に提出し、文化審会の答申が得られ、令和6年3月21日に指定された。指定後、お披露目のための展示会を実施するとともに、劣化した生産用具を計画的に修繕する。また、天明鋳物生産用具の保管場所の検討のため、先進地の事例等の調査を実施するとともに、活用方法についても検討する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	国指定された天明鋳物生産用具を適切に保存する	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		修繕を要する国指定生産用具	点				2	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	7/27～9/1「佐野の天明鋳物生産用具及び製品」展開催 8/10 国指定記念講演会開催 11/6 先進地視察（行田市郷土博物館） 1/29 令和7年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金交付申請書提出	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		修繕した国指定生産用具	点				0	
		事業費計	千円	0	0	1,914		
		一般財源	千円					
		特定財源（国・県・他）	千円			1,914		
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	修繕を要する生産用具のうち1点の修繕を令和7年度に国庫補助事業により実施するために令和7年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金交付申請を行い、令和7年度に備えた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		修繕を要する国指定生産用具	点			2	値が小さいほど良い	効果は変わらない

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	修繕を要する生産用具のうち1点の修繕を令和7年度に国庫補助事業により実施するために令和7年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金交付申請を行い、令和7年度に備えた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		修繕を要する国指定生産用具	点			2	値が小さいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	※ 10万円以上の増減により判断	効果	効果が上がった指標数	0指標	費用（R6とR5の指標値増減）	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
		効果が変わらない指標数	1指標			費用は下がった			
		効果が下がった指標数	0指標			費用の増減無し			
		指標全体	効果は変わらない			費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は国指定の祝賀事業がメインになったが、修繕を要する生産用具の修繕のため、国庫補助事業の手続きを行った。 また現在、栃木県立博物館に寄託している生産用具を市内での適切に保管・活用するための検討を継続して行う。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	指定文化財保存修復支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	指定文化財保存修復支援		款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係	事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2321	名称	文化財保護法、文化財保護条例、指定文化財保存事業費補助金交付規則	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	H23	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市の歴史や文化を語るうえで、貴重であるが、指定から年月がたち、破損や劣化したものが多数ある。これらの修理・復旧、その他に関する保存事業には、多額の費用を要する場合が多く、その負担に堪えない場合があるため、その経費の一部について補助金を交付し、適切な保存保護を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	①文化財所有者等の負担を軽減する。 ②文化財の保存事業を行うことで、文化財を後世へ伝える。 ③市の歴史・伝統文化・文化財を大切にしたいと考える市民を増やす。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件				276	278
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	95	95	95	95	95

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	対象文化財：阿弥陀如来坐像（観音寺所有 市指定文化 財） 補助した事業内容：覆屋の修繕	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		文化財修理に関して助成を希望された件数	件	1	1	1	
		保存事業に補助金交付を実施した件数	件	1	1	1	
		事業費計	千円	200	85	400	
		一般財源	千円	200	85	400	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	文化財件数について、増減はなかった。 佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合は増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件	269	274	274	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	89.1	87.7	89.6	値が大きいほど良い	効果が上がった

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果説明 (定量及び 定性)	文化財件数について、増減はなかった。 佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合は増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件	269	274	274	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	89.1	87.7	89.6	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果	
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標		費用は下がった		
	効果が下がった指標数	0指標		費用の増減無し		
	指標全体	効果が上がった		費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

件数が横ばい状態であり、所有者への制度の周知を行うなど、改善策を検討したい。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	文化財保護審議会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	文化財保護審議会運営事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2321	名称	文化財保護条例、文化財保護条例施行規則	根拠法令、条例等	目	5	義務or任意
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H17	義務的事業
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度		直営
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存				事業分類	審議会等運営事業
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	地方自治法、佐野市文化財保護条例に基づき、教育委員会の附属機関として文化財保護審議会が設置されている。審議会は、教育委員会からの諮問を受け、文化財の保存・活用について調査・審議し、教育委員会に建議する諮問機関であり、その事務執行に伴う経費を計上する。また、委員の資質向上のため先進地視察研修を実施する。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	審議会が活動しやすい環境を提供し、審議会委員の活発な議論や防火査察への参加を通じ、市内の文化財の適切な保存・保護を援助し、文化財の積極的な活用を促す。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		審議会委員出席率	%	100	100	100	100	100
		防火査案件数	件	1	1	1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	佐野市文化財保護審議会委員数 9人 【事業内容】 ・7/25 第1回文化財保護審議会開催(9人出席) ・11/6 視察研修開催(埼玉県行田市 5人出席) ・1/27 防火査察に参加(4人出席) (個別指導) ・柿本人麿神影(小堀鞆音筆)(9/25 岩船委員) ・常盤地区公民館収蔵文化財(12/19 細谷委員)	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		審議会開催数	回	2	2	1		
		審議会委員延べ出席者数	人	16	18	9		
		事業費計	千円	124	189	178		
		一般財源	千円	124	189	178		
		特定財源(国・県・他)	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	令和6年度は審議会に委員全員が出席した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	↓選択して下さい
		審議会委員出席率	%	89	100	100	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		防火査案件数	件	1	1	1	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標			効果が上がった
	効果は変わらない指標数	2指標			効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標			効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない			○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

年度当初に各委員の年間スケジュールを把握し、これに合わせて審議会の日程を設定した。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	文化財保護調査事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	文化財保護調査事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	文化財保護係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2321	名称	文化財保護法 文化財保護条例	目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度		一部委託	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存				事業分類	その他市民に対する事業	
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市域における文化財の適切な保存活用を促進するための各種の施策を展開する。主な内容は下記の通り。 ・市指定史跡や天然記念物等の草刈り、清掃作業等の維持管理 ・埋蔵文化財包蔵地内の開発行為に係る指導・協議及び試掘・確認調査や記録保存調査の実施
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市内に現存する文化財等の適切な保存活用を図る。 また、開発工事等との調整により埋蔵文化財の破壊を防ぐ。 これらの手法を通じ、文化財を大切にしようと考える市民を増やす。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件				276	278
		埋蔵文化財包蔵地毀損件数	件	0	0	0	0	0
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・市指定史跡の草刈り・清掃作業等の維持管理 葛生人骨出土跡の駐車場清掃委託（通年実施）、赤見城跡の草刈業務委託（6月・9月）、佐野城跡の犬走草刈（8月）、葛生人骨出土跡・石灰谷焼窯跡の草刈委託（10月）、木浦原のザゼンソウ群落の草刈・清掃の実施（10月・2月）、赤見城跡クビアカツヤカミキリ被害木伐採（1月）、指定文化財案内看板修繕（2件 10月） ・開発行為に伴う埋蔵文化財保護の指導・協議 前年度実績の集計（5月）、埋蔵文化財包蔵地に関する照会に対する回答（通年）、文化財保護法に基づく発掘届出の県への進達等事務（通年）	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		市指定文化財等の管理実施件数	件	12	10	11		
		文化財保護法第93・94条届出受理数	件	76	67	89		
		事業費計	千円	1,445	3,433	5,285		
		一般財源	千円	1,445	3,433	3,827		
		特定財源（国・県・他）	千円			1,458		
		（うち受益者負担）	千円					

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	文化財件数の増減はなかった。 埋蔵文化財包蔵地の毀損はなかった。 佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合は微増した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件	269	274	274	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		埋蔵文化財包蔵地毀損件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	89.1	87.7	89.6	値が大きいほど良い	効果が上がった

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件	269	274	274	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		埋蔵文化財包蔵地毀損件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	89.1	87.7	89.6	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体	費用が増加した	効果					
		1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった			
		2指標						
		0指標						
		効果は変わらない				○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は赤見城跡のクビアカツヤカミキリの被害を受けたサクラの伐採を行い、事業費が増加した。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	郷土資料保存三好館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	郷土資料保存三好館運営		新規or継続		継続事業	
	係	文化財保護係	事業		4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等 博物館条例	開始年度	H16	実施方法	一部委託
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり					
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	郷土資料保存三好館を公開して郷土の歴史・民俗等に関する資料を保護活用し、郷土意識の高揚をはかることを目的とする。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	地元自治会との協働により、三好館の管理運営を行い、見学者の利便を図るとともに、地域の歴史と伝統を再認識していただき、郷土への愛着を育んでもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		開館日数／開館予定日数	%	100	100	100	100	100
		来館者数	人	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・管理運営業務を三好地区町長に委託 ・戸室・船越・岩崎地区のボランティア6人が交代で開館業務を行う。 ・定時開館：毎月第2・第4日曜日	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		開館日数	日	24	24	24		
		延べボランティア従事者数	人	48	48	48		
		事業費計	千円	191	191	191		
		一般財源	千円	191	191	191		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	予定通り開館できた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		開館日数／開館予定日数	%	100	100	100	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		来館者数	人	53	30	72	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	効果（R6とR5の指標値増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断					効果
		1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった			
		1指標						
		0指標						

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

委託先の三好地区町会から委託料の値上げを求められている。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

		取組説明
<input type="checkbox"/>	事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	令和7年度より業務委託の単価になる一人当たりの人工費を県の最低賃金（1004円/h）に引き上げる。
<input type="checkbox"/>	事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/>	事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/>	業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/>	特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	博物館協議会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	博物館協議会運営事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	S58	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					審議会等運営事業	
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、意見を述べる機関である、佐野市博物館協議会を年2回開催する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	事業が円滑で効果的に実施できるように、博物館の運営に関して委員から貴重な意見や助言を聞く。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		意見・助言数	件	20	20	22	22	22

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	佐野市博物館協議会 ・第1回会議 10月24日開催 7人出席 ・第2回会議 3月14日開催 7人出席	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		会議開催回数	回	2	2	2	
		事業費計	千円	99	106	91	
		一般財源	千円	99	106	91	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		(うち受益者負担)	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	予定通り年2回会議を開催し、多くの意見をいただいた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		意見・助言数	件	20	21	26	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果		
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標					
	効果が下がった指標数	0指標					
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

事業が円滑で効果的に実施できるように、委員から貴重な意見や助言をいただいており、今後も必要な機会である。今後多くの委員に参加していただく。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
現状を維持する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	日本博物館協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	日本博物館協会参画事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	S58	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					参画事業	
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	日本博物館協会に加盟することにより、全国の博物館やその他の類似施設との会員相互の交流を深め、各種情報や協力を得ることで郷土博物館事業の発展を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。また、関係博物館との連携・協力の緊密化を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・市の活動 日本博物館協会に負担金(30千円)を支出し、機関誌等を収集する。 ・日本博物館協会の活動 全国大会・全国博物館長会議・指導者研究協議会・講演会等を開催し、『博物館研究』や『全国職員録』等を発行し、会員に提供している。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		機関誌収集数	部	12	12	12		
		会議・研究会参加数	回	0	0	0		
		事業費計	千円	30	30	30		
		一般財源	千円	30	30	30		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	会議等には参加できなかったが、機関誌等から情報を得られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	効果は変わらない	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった	
		効果は変わらない指標数	2指標				効果は変わらない	
		効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった	
		指標全体	効果は変わらない				費用の増減無し	○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

他館の状況や活動・動向に関する情報が得られており、日本博物館協会に参画することは必要である。今後も会議等に参加し情報を得る。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
現状を維持する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	栃木県博物館協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	栃木県博物館協会参画事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	S58	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					参画事業	
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	栃木県博物館協会で開催される研究会・研修会・視察・見学会等に積極的に参加することによって、会員相互の交流を深め各種の情報や協力を得ることで郷土博物館事業の発展を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。また、教育普及活動及び展示等に関する技術の向上を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・市の活動 栃木県博物館協会に負担金(5千円)を支出。 ・栃木県博物館協会の活動 総会・研究会・講演会・視察研修会を開催し、機関誌を発行している。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		機関誌収集数	部	1	1	1		
		会議・研究会参加数	回	0	2	1		
		事業費計	千円	5	5	5		
		一般財源	千円	5	5	5		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	会議等に参加し情報が得られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果		
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	2指標					
	効果が下がった指標数	0指標					
	指標全体	効果は変わらない					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

他館の状況や活動・動向に関する情報が得られており、栃木県博物館協会に参画することは必要である。今後も会議等に参加し情報を得る。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	現状を維持する。
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生伝承館企画展等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	葛生伝承館		新規or継続		継続事業	
	係	葛生伝承館	企画展等開設事業		市単独or国県補助		市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	根拠法令、条例等	開始年度	H16	実施方法
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		終了年度	-	事業分類	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり					
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	県指定有形民俗文化財「吉澤人形頭」、県指定無形民俗文化財「牧歌舞伎」関連資料を中心に、佐野市に伝わる神楽・歌舞伎・節句人形などの伝統芸能や民族資料を企画展で展示・紹介する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	多くの優れた佐野市の文化や芸能に関する資料を集め、より多くの人に鑑賞してもらえるようにする。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		企画展開催期間中入館者数/市人口	%	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
		期間中入館者数前年度対比	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・「雛人形展」4月1日(月)～4月5日(金)(4日間) ・「祝掛け軸展」4月19日(金)～6月23日(日)(57日間) ・「牧歌舞伎と吉澤人形頭展」7月13日(土)～9月23日(月・祝)(63日間) ・「羽子板展」10月8日(火)～12月15日(日)(58日間) ・「雛人形展」1月4日(土)～3月9日(日)(55日間) ・「佐野土鈴展」3月21日(金)～3月31日(月)(9日間)	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		企画展開催期間中入館者数	人	5,929	6,023	9,652		
		企画展開催期間日数	日	254	240	246		
		企画展の内容に満足した入館者/アンケート回答者	%	83.8	89.5	89.4		
		事業費計	千円	157	171	168		
		一般財源	千円	157	171	168		
		特定財源(国・県・他)	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	企画展開催期間中入館者数が増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		企画展開催期間中入館者数/市人口	%	5.1	5.3	8.5	値が大きいほど良い	効果が上がった
		期間中入館者数前年度対比	%	109.7	101.6	160.3	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果			
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
			費用は下がった			
			費用の増減無し	○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

企画展開催期間中入館者数が増え、より多くの人に鑑賞してもらえた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

	取組説明
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	現状を維持する。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生伝承館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	葛生伝承館維持管理事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生伝承館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H16	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					施設維持管理事業	
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生伝承館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供する。
------	----------------------------------

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	施設を安全で良好に維持管理する。入館者が不都合なく安全に利用できる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		施設が安全で良好に使われた割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・清掃業務委託、機械警備業務委託 ・くん蒸の実施（年1回） ・空調設備、消防設備の保守点検の実施（年2回） ・建物損害共済保険の加入	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		くん蒸回数	回	1	1	1		
		保守点検回数	回	4	4	4		
		修繕件数	件	1	0	2		
		事業費計	千円	4,318	3,888	4,878		
		一般財源	千円	4,318	3,888	4,878		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	修繕は2件あったが大きなトラブルにはならなかった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	↓選択して下さい
		施設が安全で良好に使われた割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標			効果が上がった
	効果は変わらない指標数	1指標			効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標			効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない			○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設が老朽化しているので、施設トラブルがないようこまめな点検を行う。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	現状を維持する。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生伝承館講座等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	葛生伝承館		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生伝承館	講座等開設事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H16	実施方法
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					イベント等開催事業
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	生涯学習の場として、子供から大人まで利用していただけるような体験講座等を企画開催する。受講者は広報・HP等を通じて募集する。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	郷土に関わりのある伝統・文化・芸能に対し、興味を持ってもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		講座を面白く感じた参加者/アンケート回答者	%	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日 民話語り 5月5日(日・祝) ・びゅんびゅんゴマを作ろう 8月28日(水) ・羽子板を彩ってみよう 12月27日(金) ・土鈴を作ろう 令和7年1月26日(日) ・出張講座 郷土の文化と芸能を知ろう 8月1日(木) ・出張講座 牧歌舞伎について 9月20日(金) 	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		受講者数	人	85	147	84		
		講座開設数	回	3	4	6		
		事業費計	千円	0	8	19		
		一般財源	千円	0	8	17		
		特定財源（国・県・他）	千円			2		
		(うち受益者負担)	千円			2		

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	受講者数・面白いと感じた参加者とも前年度より減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		講座を面白く感じた参加者/アンケート回答者	%	90.7	93.1	76.9	値が大きいほど良い	効果が下がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	受講者数・面白いと感じた参加者とも前年度より減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		講座を面白く感じた参加者/アンケート回答者	%	90.7	93.1	76.9	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				
		効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
		効率	費用は下がった			
		費用の増減無し			○	
		費用が増加した				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

受講者数・講座を面白いと感じた参加者の割合ともに減っているので、内容等を検討する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
内容等を検討する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生伝承館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	葛生伝承館運営事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生伝承館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H16	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					施設維持管理事業	
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生伝承館を運営するための事業。資料の収集整理・管理・学芸業務補助のため会計年度任用職員を任用する。また、収集資料の修繕や受付業務の委託、調査などに係る旅費、事務用経費、展示品の修繕などを行っている。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	展示資料を見学することにより地域の伝統・文化を知ってもらう。入館者に利用しやすい環境を整える。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		入館者数/市人口	%	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・会計年度任用職員による事務・展示・資料管理・施設管理・受 付業務補助 ・受付業務委託 ・パソコン及び周辺機器・デジタルフルカラー複合機の借上げ ・各種事務用消耗品の購入	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		入館者数	人	5,929	6,023	9,652		
		収集資料数	点	851	893	912		
		事業費計	千円	6,488	7,295	8,113		
		一般財源	千円	6,479	7,278	8,093		
		特定財源（国・県・他）	千円	9	17	20		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	入館者数が前年度より増え市民に対する割合も増えた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		入館者数/市人口	%	5.1	5.3	8.5	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果				
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

入館者数・市民に対する割合ともに増え、地域の伝統・文化を知ってもらえた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生化石館企画展等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	葛生化石館		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館	企画展等開設事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H14	実施方法
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					イベント等開催事業
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	常設展とは別に、短期間で自然や化石・地質に関する企画・展示を行う。これはテーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激するため、保管する収蔵品や他館の資料を借用して行う。また、企画展の関連講座を実施する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		企画展開催期間中入館者数/市人口	%	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
		期間中入館者数前年度対比	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	企画展「生き物がつくる鉱物の話」展 7月13日(土)～11月24日(日)(115日間) 企画展「第19回新着標本展」 令和7年1月18日(土)～3月31日(月)(59日間) 企画展関連講座 講演会 「小さな生き物がつくる鉱物の話～地球の気候変動を読み解く～」 11月9日(土)、講師：久保田好美氏	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		企画展開催期間中入館者数	人	13,721	12,092	16,640		
		企画展の内容に満足した入館者/アンケート回答者	%	94.0	97.9	95.9		
		講演会参加者数	人	45	35	29		
		事業費計	千円	133	119	398		
		一般財源	千円	133	119	398		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	企画展開催期間中入館者数は前年度より増えたが、内容に満足した入館者の割合・講演会参加者は減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		企画展開催期間中入館者数/市人口	%	11.9	10.5	14.7	値が大きいほど良い	効果が上がった
		期間中入館者数前年度対比	%	138.4	88.1	137.6	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標					
	効果が下がった指標数	0指標					
	指標全体	効果が上がった			○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

企画展開催期間中入館者数は前年度より大幅に増加したが、内容に満足した入館者の割合・講演会参加者は少し減っているので、内容等を検討する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	内容等を検討する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生化石館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	葛生化石館維持管理事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H14	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					施設維持管理事業	
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生化石館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、化石館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	施設・設備・収蔵資料の良好な維持管理を図る。入館者が不都合なく安全に利用できる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		施設トラブル件数	件	0	0	0	0	0
		適切な収蔵資料件数/収蔵資料総数	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・照明器具等維持管理のための消耗品の購入 ・常設展示物動産保険の加入 ・くん蒸の実施（年1回） ・空調設備の保守点検の実施（年2回） ・公用車の維持管理 	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		くん蒸回数	回	1	1	1		
		保守点検回数	回	2	2	2		
		事業費計	千円	1,485	2,916	1,487		
		一般財源	千円	1,485	2,916	1,487		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	施設トラブルもなく良好に管理している。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		施設トラブル件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない
		適切な収蔵資料件数/収蔵資料総数	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標			効果が上がった
	効果は変わらない指標数	2指標			効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標			効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない			
			費用が下がった	○	効果は変わらない
			費用の増減無し		
			費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設が老朽化しているため、施設トラブルがないようこまめに点検を行う。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生化石館講座等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	葛生化石館		10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生化石館	講座等開設事業		4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等 博物館法 佐野市博物館条例	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業 期間	開始年度 終了年度	H14 -	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり					
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					イベント等開催事業

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	生涯学習の場として、子供から大人まで利用していただけるような体験講座等を企画開催する。受講者は広報・HP等を通じて募集する。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民の文化教養を高め、学習意欲の向上を目指す。より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		受講者数/市人口	%	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
		受講者数前年度比	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・展示解説ボランティア養成講座 4月27日(土)、5月25日(土)、6月15日(土) ・地質の日記念事業「化石とあそぼう」 5月11日(土) ・化石の日記念事業「化石とまなぼう」 10月13日(日) ・化石採集教室 7月27日(土)、11月23日(土) ・ジオウォーキング 11月3日(日)、3月20日(木・祝) ・出張講座を実施 	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		受講者数	人	656	842	1,088	
		自主講座開設数	回	6	6	9	
		出張講座数	回	8	9	9	
		事業費計	千円	102	40	135	
		一般財源	千円	43	0	45	
		特定財源（国・県・他）	千円	59	40	90	
		(うち受益者負担)	千円	59	40	90	

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	受講者数が前年度より増え、市民に対する割合も増えた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		受講者数/市人口	%	0.6	0.7	1.0	値が大きいほど良い 効果が上がった
		受講者数前年度比	%	245.7	128.4	129.2	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	2指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった
	指標全体	効果が上がった				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

受講者数・市民に対する割合ともに増え、自然科学に関心を持ってもらえた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	現状を維持する。

- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	葛生化石館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	葛生化石館運営事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館法 佐野市博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H14	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					施設維持管理事業	
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生化石館を運営するための事業。資料の整理・管理・学芸業務補助のため会計年度任用職員を任用する。また、事務用経費、ボランティア活動支援、展示用パネルや標本作製などを行っている。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。入館者に利用しやすい環境を整える。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		入館者数/市人口	%	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
		広報紙・情報誌等掲載回数	回	30	30	30	30	30

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・会計年度任用職員による事務・施設管理・学芸業務補助 ・ボランティアによる事業・講座補助、勉強会、視察研修 ・パソコン及び周辺機器・デジタルフルカラー複合機の借上げ ・各種事務用消耗品の購入 	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		入館者数	人	16,606	16,481	22,495		
		収蔵資料数	点	2,201	2,230	2,238		
		事業費計	千円	3,513	3,652	4,512		
		一般財源	千円	3,453	3,584	4,452		
		特定財源（国・県・他）	千円	60	68	60		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	入館者数・広報紙等掲載回数ともに前年度より増えた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		入館者数/市人口	%	14.4	14.4	19.8	値が大きいほど良い	効果が上がった
		広報紙・情報誌等掲載回数	回	44	39	49	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	2指標			効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標			効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標			効果が下がった
	指標全体	効果が上がった			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

情報誌等の取材に積極的にに対応し、入館者数・広報紙等掲載回数ともに前年度より増えた。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	現状を維持する。
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	田中正造旧宅一般公開支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算 款 項 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	田中正造旧宅一般公開支援事業		10	新規or継続	継続事業	
	係	文化財保護係			4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	事業 期間	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		H16	実施方法	直営	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	事業分類	支援事業	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	小中町にある田中正造旧宅（栃木県指定史跡）の適切な保存と一般公開を図り、佐野市が誇る歴史的人物である田中正造翁の偉業を市内外に広く伝えるため、旧宅の維持管理及び一般公開を行っている（一財）小中農教俱楽部に対して補助金を交付する他、説明ボランティア団体育成のための支援を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	田中正造翁の偉業を認識してもらい、誇れる郷土の歴史を正しく理解し後世に伝えるため、田中正造旧宅一般公開事業の円滑な運営と財政の健全化、及び説明ボランティア団体の養成を支援する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		年間入場者数	人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		ボランティア従事者数	人	20	20	20	20	20

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	【市の活動】 （一財）小中農教俱楽部への管理運営費補助金及び入場料補助金の交付事務、県指定文化財「田中正造旧宅」の維持管理、現状変更等に関する指導及び助言 【一般財団法人小中農教俱楽部の活動】 年2回の役員会、年1回の田中正造翁、カツ子夫人法要の実施、田中正造旧宅の一般公開、田中正造旧宅の維持管理 【共催】 説明ボランティア団体視察研修	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		開館日数	日	203	205	204		
		説明ボランティア団体視察研修	回	0	1	1		
		事業費計	千円	978	941	838		
		一般財源	千円	978	941	838		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	コロナ渦も明け、入場者数も戻りつつある。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		年間入場者数	人	861	1,548	1,140	値が大きいほど良い	効果が下がった
		ボランティア従事者数	人	14	14	13	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断	効果				
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		
						○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

関係者からボランティアガイドの扱い手が不足しているとの意見があり、視察研修と合わせて、何らかの支援策を検討する必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明		
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討

- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	郷土博物館指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課	郷土博物館指定管理事業		款	10	新規or継続	新規事業	
	係	文化財保護係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館条例	目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	R5	実施方法	
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度			指定管理者	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					施設維持管理事業	
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	郷土博物館において、運営の効率化、新視点での企画・展示及び柔軟で充実した職員配置などを実現することにより、来館者の増加や魅力度の向上を図るために、令和5年4月1日から、指定管理制度を導入した。仕様の中で規定した業務に関するものについては指定管理料で一括で委託するが、市が行う業務（5万円以上の修繕費や火災保険料など）については、市が予算化し業務を行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	運営の効率化、新視点での企画・展示、柔軟で充実した職員配置を図り、来館者の増加、魅力度の向上、基本構想に則った館機能の実現、市民の歴史・文化への理解向上を目的とする。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		年間来館者数	人			19,270	20,000	20,000
	佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%			95	95	95	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	企画展開催 4回 学校利用促進事業 講座 10メニュー	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		企画展開催数	回		4	4		
		学校利用 来館児童数	人		2,626	2,549		
		事業費計	千円	0	34,517	35,035		
		一般財源	千円		34,205	34,701		
		特定財源（国・県・他）	千円		312	334		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	来館者数は2月末現在である。 学校利用促進事業では、説明内容により衣装を着替えたり、クイズ形式にするなど、楽しんで学べるような工夫を凝らし、講評を得ている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		年間来館者数	人		19,270	17,444	値が大きいほど良い	効果が下がった
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%		88	90	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数
	1指標
	効果は変わらない指標数
	0指標
	効果が下がった指標数
	1指標
	指標全体
	効果は変わらない

※ 10万円以上の増減により判断

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し			
費用が増加した	○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	郷土資料保存三好館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	郷土資料保存三好館維持		款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係	管理事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	博物館条例	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H16	実施方法
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度			一部委託
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					事業分類
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					施設維持管理事業

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	郷土資料保存三好館を維持管理し、利用者に良好な環境を提供する。
------	---------------------------------

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	建物・機械設備等を適切に管理し、展示室や収蔵施設の最適環境を維持することで、利用者が、安全で快適に施設を利用できる環境を保つ。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		良好に管理された資料数／収蔵資料数	%	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持管理に係る消耗品の購入、光熱水費の支払 火災保険に加入 消防設備、し尿浄化槽の保守点検業務の委託(年間) 植栽剪定 ヒマラヤスギ伐採 	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		管理・維持点検件数	件	2	2	2		
		修繕件数	件	0	2	1		
		事業費計	千円	260	287	1,415		
		一般財源	千円	260	287	1,415		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	資料は良好に管理されている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		良好に管理された資料数／収蔵資料数	%	100	100	100	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	1指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない				○
			費用は下がった	費用の増減無し	費用が増加した	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は敷地北西にあったヒマラヤスギを伐採したため、例年より費用が増加した。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	